

業務実績報告書

提出日 2020年1月22日

1. 職名・氏名 教授 北 明美

2. 学位 学位 修士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1992

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 社会保障論(4単位 毎年開講) 1年生 (2017年度以前~2019年度)
② 内容・ねらい 生活保護、公的年金、医療保険、雇用保険等日本の代表的な社会保障制度について解説し、体系的な理解を促す。社会保障についての関心を喚起し、その知識や洞察をソーシャルワーカーとしての見識、実践に活かす基礎作りをする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 日本の社会保障制度は複雑であり、毎年のように改正・改変される等、それらを正確に理解するにはかなりの力が必要であるが、1年生であっても基本的な事柄は十分に理解できるように、専門的な事柄を日常用語で伝える工夫をしている。また、新聞記事、テレビニュース、ルポルタージュ番組のビデオ等を用いながら、ほとんどすべて手作りの教材によって視覚や生活感覚に訴えやすい解説をこころがけ、社会保障についての関心を喚起し、受講生が自ら社会の日々のできごとを社会保障の問題として捉え直し、考える場面をなるべく多く用意している。また、適宜小テストを行い、知識の定着・整理を促している。イードバックシート等で把握した質問に頻繁に答えている。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 基礎演習(4単位) 2年生 (2017年度以前~2019年度)
② 内容・ねらい 時事問題を社会保障・社会福祉の視点からとらえるよう促し、かつ自身の人生に起こりうるリスクにつきあわせて考察させる。また対話力を身につけさせる。
③ 講義・実験・実習運営上の工夫 レジメの作り方を具体的に指導し、またゼミ生各自が報告者に有益なフィードバックを行うよう促すことによって、全員のモチベーションがあがるように工夫した。 各人の発言の機会を多く取り、プレゼンテーションの技術だけでなく、自己洞察、傾聴、自己開示、対話のスキルを獲得していくように促した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 生活保護論(2単位) 3年生 (2017年度以前~2019年度)
② 内容・ねらい 新カリキュラムでは低所得者支援策を4年生配当として独立させたため、この講義では生活保護法の基本的内容とケースワーカーの仕事についての基礎的知識を身につけることに主眼を置いている。貧困を歴史的社会的文脈のなかでとらえ、生活保護にまつわるスティグマを批判的に検討すると同時に、真の自立助長とはどうあるべきか、何が貧困の連鎖を生み、それを断つには何が求められるかについて考察を深めるよう促す。
③ 講義・実験・実習運営上の工夫 生活保護関連の統計から、その背後にある被保護者類型の特徴とその変化、新しい動向、日本の公的扶助の特徴が読み取れることを示し、分析力の養成に努めている。また、厚生労働省のHP等を紹介し、自主的な学習・研究の手掛りを示している。さらに新聞記事等を活用して、身に付けた基礎的知識をもとにそれらを内在的あるいは批判的に検討することによって、貧困問題の現状について理解させると同時に、日本社会の生活保護観、被保護者観について再検討する機会としている。 また世間的に注目された「不正受給」非難キャンペーンに焦点を当て、扶養義務および不正

<p>受給概念についての俗説について学問的な批判を加える時間をとり、生活保護についての学生の関心を高めた。</p> <p>さらに 2013 年度以降の生活保護法改正問題にも焦点を当て、新旧条文の相違とその含意をオリジナルな教材で解説した。また、コミック等も活用した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 低所得者支援 (2 単位 毎年開講) 4 年生 (2017 年度以前-2019 年度)</p>
<p>② 内容・ねらい 生活保護のケースワーク、ホームレス支援策、ボーダーライン層に対する社会福祉協議会の福祉資金貸付等について理解を促す。就労支援策担当の吉村臨兵教員とのオムニバスである。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 可能な限りグループディスカッションを多く取り入れ、当事者のエンパワメントにつながる相談の受け方、支援の仕方について能動的に考えさせるよう努めている。また、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験問題の傾向の解説も適宜行った。</p> <p>また、2013 年の生活保護法改正以降の就学支援や最低賃金への影響、生活困窮者支援法の解説についての解説を加え、コミックも活用した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 福祉国家論 (2 単位 毎年開講) 4 学部 1 年生 (2017 年度以前～2019 年度)</p>
<p>② 内容・ねらい 世界の福祉国家政策は一様ではなくさまざまなタイプに分かれることを理解し、それが国民生活に与える意義について考え、受講生が日本の福祉国家政策について提言できるようになることが目標である。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 生物資源、海洋資源、経済、看護福祉 4 学部共通で、本学としては多人数の授業であり、大教室であるため、授業秩序が心配されたが、実際には意外に私語は少なく授業に対する集中度も高い。これは若者に関心をもたれやすく、かつ感動を呼ぶような視聴覚教材、ビデオ、文章等を収集して授業に取り入れ、解説はできる限り最低限のポイントのみの簡潔な内容にするよう努めていること、毎回全員に資料・講義テーマについてのコメントを書かせるが、その内容自体は評価の対象にしないと確約した上で、自由に思いつくままに書くよう促していることがかえって学習意欲を増しているのではないかと考えている。</p> <p>またアイス・ブレイキング、ウォーミング・アップもかねて、毎回、自己の感情の動きについての振り返りを短文に書かせているが、気持ちが落ちつくと好評である。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 教養ゼミ・福祉とジェンダー (1 単位 毎年開講) 4 学部 1 年生 (2017 年度以前～2019 年度)</p>
<p>② 内容・ねらい ドメスティック・バイオレンス、デート DV, 性暴力、セクシュアル・ハラスメント、買春といった諸問題を通じて、女性と男性と社会という三者の関係を考察する。また、こうした暴力や性の商品化の問題に対する各国の取り組みから学びながら、社会福祉の新しい課題について論じる。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 新入生の導入ゼミであるので、レジメの作成の仕方、レポーター、コメンテーター、それ以外の参加者のそれぞれの役割などを教え、どの立場でも積極的に参加することの重要性やその他のゼミの作法、講義とゼミの違い等を説明するところから始める。それぞれ違う学部の知らない同士の初顔合わせであるため、最初の時期は受講生の緊張が非常に強いので、何よりもまずゼミの楽しさを味わえるように、アイス・ブレイキングを積極的に心がけ、少人数、数分の話し合いでウォーミング・アップして次第にゼミ全員での意見交換に持っていくように段階を踏んでいる。建設的な対話ができる能力を養うことが平等な人間関係を作っていく力にもつながるという意味で、ゼミに積極的に参加することとゼミのテーマとが密接につながっていると受講生が実感できるよう努めている。また、課外での交流や調理室での協働の食事作り等も体験させ、ゼミ生同士の親睦関係を深めさせた。</p>

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 社会保障・社会福祉概説 (2単位 毎年開講) 看護福祉学部看護学科1年生 (2017年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい ひとびとの一生を社会的に支える社会保障・社会福祉の基本的なしくみ、考え方、目的について解説し、それらに関わる専門職の役割についても紹介する。また、看護学科の学生と社会福祉学科の学生がともに社会保障・社会福祉を学ぶことの意義を解説する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 看護学科の学生が自身の専門分野に直接関わりがあると感じられ、かつ、福祉職との協働連携の必要があるような社会福祉上のトピックを中心的にとりあげている。精神保健福祉専門の橋本教員、医療ソーシャルワーク専門の木村教員とのオムニバス講義であり、北は生活保護、医療保険、年金等の社会保障等に関連する福祉サービスを取りあげて、説明している。また、国家試験の過去問も随時解説している。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 社会保障論 (2単位 毎年開講) 経済学部2年生 (2017年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい 生活保護、公的年金、医療保険、雇用保険等日本の代表的な社会保障制度について解説し、体系的な理解を促す。また、日本の経済社会のなかの社会保障の役割やそれらの相互関連について考察させる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基本用語を徹底的に学習した後、新聞の社会保障関連記事を読ませ、以前にはほとんど理解できなかった内容がすらすらと理解できるようになるということを授業の中で実感できるようにしている。また、受講生が自分の出身家庭や今後の自分のライフサイクルを頭に描きながらどのような社会保障がどのように利用できるか考えるきっかけになるトピックを前面に出して解説し、ビデオ等もそのような内容を基準に選んで見せている。さらに少子高齢化についてはワンパターンな危機感をもっている受講生が少なくないので、重要でありながらあまりとりあげられていないようなデータや情報を示すことによって、アカデミックな考察に対する関心も喚起している。受講生は社会保障についての新聞記事等が次第に理解できるようになることに達成感を感じている。また、社会にでてからの自分の人生に直接役立つ知識を得ているという満足感を感じているようである。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 オムニバス 現代人権論 (2単位 毎年開講) 1・2・3年生 (2017年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい 現代社会における人権問題を他学部他学科教員、外部講師も含めたオムニバス形式で解説する。北の担当テーマは「性暴力について考える」である。
③ 講義・実験・実習運営上の工夫 キーワードとして「魂の殺人」、「レイプ神話」、「二次加害」の3つに設定して解説をおこないつつ受講生に考えさせた。教材は現実の当事者の手記、加害者の意識を探究する記事、警察のアンケート調査、リベンジポルノの事件報道記事、最近の刑法改正関連部分等である。またデータDV等をテーマとする外部講師と互いの講義を参観しあう等、調整と連携に努めている。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 卒論指導 (2単位 毎年開講) 4年生 (2016年度以前～2018年度)
② 内容・ねらい 指導論文タイトル 2017年度「何が女性の活躍を阻んでいるのか」「子どもの貧困と教育」「子どもの貧困とそれに対する支援策の検討」 2018年度「ジェンダー視点からみる性の多様性」「秋葉原事件から考える児童虐待の後遺症とネット依存」 2019年度「リプロダクティブヘルス/ライツとジェンダー」「就職氷河期世代」

<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>文献の渉猟を体験させ、また文献研究の基本・ルールを習得させる。考察のなかで自己の人生を社会的歴史的な文脈の中でとらえなおすとともに、いぜんより深い社会認識、自他の認識を促す。章構成、文章、表記法等は詳細にチェック、添削する。また、提出後の発表会でのプレゼンテーションについても具体的な指導を行う。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等</p> <p>社会保障特論 (2 単位 毎年開講) 修士課程 1 年生 (2017 年度以前～2019 年度)</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>少子高齢化や国債累増をあげて社会保障の抑制を不可避とするワンパターンの議論にとどまることなく、厚生労働省・財務省等の行政解釈を批判的に分析できる洞察力、内外の学説史を踏まえた提言ができる力の要請をめざす。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>参加者の問題関心にあわせたトピックに焦点をあて、研究意欲を喚起するとともに、文献・資料の読み方について適宜具体的かつ細やかなアドバイスを行っている。また、受講生のコメントや傾向に応じて、ふさわしい教材や資料を検討・準備して講義に臨んでいる。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等</p> <p>コミュニケーション特論 (2 単位 毎年開講) 修士課程 1 年生 (2017 年度～2019 年度)</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>福祉・看護職場において求められるコミュニケーションスキルについて、多様なアプローチから考察し、各技法を適切に適用できる判断力と実践力を身につける。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>オムニバス形式で担当教員のそれぞれの専門性を活かし、カウンセリング、アイス・ブレーキング、アサーティブトレーニングをグループワークによって実践的に体験学習させた。またハラスメント相談の事例検討も行う等、主体的な学習によって知識・感情の両面において各自の自己啓発の機会となるよう全体をファシリテートした。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等</p> <p>修士論文指導 (2 単位 毎年開講) 修士課程 1 年生 (2017 年度以前～2019 年度)</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>指導論文タイトル 2017 年度「子ども劇場活動の考察」</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>指導教員の補佐として、あるいは主査として本人の問題関心と研究テーマ、使用文献とのマッチング、完成までのモチベーション維持を支援した。文章構成等も細かく添削を行った。</p>
<p>(2) 非常勤講師担当科目</p>
<p>(3) その他の教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度以前から毎年、年に数回、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験対策講座の講師を務めている。また関連会議にも時間のゆるす限り出席している。 ・ゼミ、卒研担当者として担任の仕事を務めるほか、1 年生の担任 (他に担当教員 2 名) もひきうけており、学生の相談にのり、可能な限り個人面談を行うほか、必要に応じ保護者との連絡も行っている。 ・2 年生による新入生オリエンテーション補助・新入生歓迎パーティ、1 年生主催のクリスマスパーティに関わる指導・援助等を行っている。 ・社会福祉実習生にハラスメント防止問題について年に 1 コマ講義を行い、さらに社会福祉・精神保健福祉の各実習担当者連絡会議で、本学のハラスメント防止対策について案内を行っている。 ・経済学部、生物資源学部学生のインターン準備として、ハラスメント防止策について年に 1 コマ講義をしている。 ・教育実習生にハラスメント防止策について年に 1 コマ講義をしている。 ・2019 年度、修士論文の審査で副査担当。 ・導入ゼミや学術教養科目担当者、他学部協力教員として、他学科、他学部、他研究科の学生・院生からの相談等にも頻繁に応じている。

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表
① 書評論文 「竹中恵美子著作集(全7巻)を読む」『大原社会問題研究所雑誌』(705) 2017年7月(pp. 74-99) 「子ども・子育て支援新制度と 児童手当—保育無償化における児童手当からの給食費徴収に関わって—」『保育情報』2020年2月号。
② 著書 山野良一他編『子どもの貧困シリーズ5』明石書店、2019年(第1章「子どもの貧困と『社会手当』の有効性-防貧政策としての児童手当制度」担当)
③ 学会報告等 ・「同一賃金論争をふりかえる—『働き方改革』の危うさ」第46回ちよっといって講座2017年5月30日。 ・「児童扶養手当と障害基礎年金の子加算の調整にみるジェンダーバイアス」日本フェミニスト経済学会大会 2017年7月8日 ・「竹中恵美子著作集(全7巻)を読む」再生マルフェミ研究会 2017年7月17日。 ・「竹中恵美子の同一価値労働同一賃金論とフェミニズム」フォーラム 労働・社会政策・ジェンダー企画・竹中恵美子米寿記念シンポジウム「不平等と生きづらさ 一人間らしく働けない社会に挑む」2017年9月10日。 ・「社会保障制度と憲法」社民党福井県連合主催憲法学習会、2017年10月7日。 ・「働き方」と「社会保障」の「改革」でどうなる？女の明日』いこ☆る第15回総会2018年3月18日。 ・「安心の『社会保障』というけれど…?!～世代間の壁を越え、ジェンダー視点から考えよう～」高齢社会をよくする女性の会・大阪 2018年7月14日。 ・「人間らしい働き方としあわせ —『働き方改革』の視点から—」岸和田女性会議2018年11月10日。 ・「『選別しない社会へ』-社会保障とお金の話」フォーラム 労働・社会政策・ジェンダー企画セミナー 2019年2月9日。 ・「日本の児童手当制度の不思議」第14回子どもの貧困研究のフロンティア定例学術研究会報告 2019年6月25日。 ・「所得保障・社会手当」『子どもの貧困』全5巻出版記念シンポジウム・パネル・ディスカッション「子ども・家族のいまと実践のこれから」2019年7月27日。 ・「幼児教育・保育の無償化と児童手当」再生マルフェミ研究会2019年10月22日。 ・「消費税率アップと社会保障のフェイクな関係—全世代型社会保障改革の功罪」いこ☆る秋の講座2019年11月24日。
④ 書評他 ・講演録 北明美「同一賃金論争をふりかえる—『働き方改革』の危うさ(2017年5月30日)」ちよっといって講座実行委員会 ・講演録 北明美「『働き方』と『社会保障』の『改革』でどうなる？ 女の明日」『いこ☆る』Vol.53(2018年6月号) ・講演録 北明美「安心の『社会保障』というけれど…?!～世代間の壁を越え、ジェンダー視点から考えよう～(2018年7月14日)」『高齢社会をよくする女性の会・大阪会報』No.101 ・講義抄録 北明美FD(ハラスメント防止)研修(福井医療大学FD報告2018年度) ・講演録 「消費税率アップと社会保障のフェイクな関係—全世代型社会保障改革の功罪」『いこ☆る』(2020年2月号)

5. 地域・社会貢献

(1) 学外団体
・2017年度以前—2019年度 社会政策学会誌『社会政策』査読委員。 ・2017年度以前～福井県地域年金事業運営調整会議委員長。 ・2017年度以前～社会保険診療基金福井支部幹事。

(2) 大学が主体となっている地域貢献活動等
<p>① 公開講座・オープンカレッジの開講</p> <p>「自尊感情回復プログラム 2017 前期」コーディネーター、永平寺キャンパス、2017 年 6-8 月。 「自尊感情回復プログラム 2017 後期」コーディネーター、永平寺キャンパス、2017 年 10-12 月。 「自尊感情回復プログラム 2017 小浜編」コーディネーター、小浜キャンパス 2017 年 8 月。 「自尊感情回復プログラム 2018 年度前期」コーディネーター、永平寺キャンパス 2018 年 6-7 月 「自尊感情回復プログラム 2018 年度後期」コーディネーター、永平寺キャンパス 2018 年 10 月-2019 年 1 月 「自尊感情回復プログラム 2018 小浜編」コーディネーター、小浜キャンパス 2018 年 8 月。 「自尊感情回復プログラム 2019 年度前期」コーディネーター、永平寺キャンパス 2019 年 6 月-8 月 「自尊感情回復プログラム 2019 小浜編」コーディネーター、小浜キャンパス 2019 年 8 月。 「自尊感情回復プログラム 2019 年度後期」コーディネーター、永平寺キャンパス 2019 年 10 月-12 月</p> <p>看護福祉究科社会福祉専攻公開講座「一歩先の社会福祉学へ 2017 年度前期」コーディネーター、2017 年 6 月 17 日、18 日。 看護福祉研究科社会福祉専攻公開講座「一歩先の社会福祉学へ 2017 年度後期」コーディネーター、2017 年 10 月 14 日。 看護福祉研究科社会福祉専攻公開講座「一歩先の社会福祉学へ 2018 年度前期」コーディネーター、2018 年 6 月 23 日。 看護福祉研究科社会福祉専攻公開講座「一歩先の社会福祉学へ 2018 年度後期」コーディネーター、2018 年 11 月 4 日。 石川県立鶴来高校生対象模擬授業 2017 年 9 月 18 日。</p>
(3) その他（個人の資格で参加している社会活動等）
<ul style="list-style-type: none"> ・福井医療大学 ハラスメント防止研修講師 2017 年 4 月 8 日 ・福井医療大学 ハラスメント防止研修講師 2018 年 4 月 10 日 ・福井医療大学 FD 研修（ハラスメント防止）講師 2018 年 5 月 16 日 ・福井医療大学 ハラスメント防止研修講師 2019 年 4 月 6 日 ・福井労働局ハラスメント防止研修講師 2019 年 10 月 8 日 ・女性の社会生活活動部フルード主催エンパワメントセミナー・コーディネーター 2019 年 10 月 20 日

6. 大学の管理・運営

(1) 役職
(2) 委員会・チーム活動
<p>ハラスメント等人権問題に関する委員会委員（委員長代理）2017 年度以前～2019 年度 FD 研修 WG メンバー 2017 年度 FD 部会委員 2018 年度 社会福祉学科国家試験支援委員会委員 2017 年度以前～2019 年度 社会福祉学科同窓生連絡係 ML 運営のコーディネート 社会福祉学科入学生 ML 作成のコーディネート</p>
(3) 学内行事への参加
<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント問題相談員向け専門研修コーディネート（2017 年度以前-2018 年度） ・新入生、在学生向けオリエンテーションでのハラスメント対策案内コーディネートおよび担当（2017 年度以前-2019 年度） ・ハラスメント対策広報リーフレット文案・レイアウト、ポスター等の作成（2017 年度以前-2019 年度）。 ・ハラスメント対策アンケート（学生対象）結果、相談結果概要のとりまとめとHP掲載原稿

の作成等（2017年度以前-2019年度）。

- ・2017年度以前よりクラブ・サークル代表者会議でアルコール・ハラスメント等防止研修担当。
- ・2017年度以前より教育実習生対象セクシュアル・ハラスメント防止研修担当。
- ・2017年度以前より社会福祉実習生対象セクシュアル・ハラスメント防止研修担当。
- ・2017年度以前より社会福祉実習・精神保健指導者対象セクシュアル・ハラスメント防止研修担当。
- ・2017年度以前より短期語学研修参加者対象セクシュアル・ハラスメント防止研修担当。
- ・2017年度以前より新任職員向けハラスメント防止研修の講師。
- ・2017年度以前よりインターン生向けハラスメント防止研修講師（経済学部・生物資源学部）。
- ・2017年度新入生合宿引率者。2017年4月8日～9日。
- ・FD研修（質問会議）参加。2017年9月6日。
- ・FD研修（TPチャート）参加。2017年12月14日。
- ・FD研修（地域連携）参加。2018年9月13日。

(4) その他、自発的活動など

- ・休学中の学生にたびたび対応した。
- ・対人恐怖を訴える学生に継続的に対応した。
- ・転職・就職・家族関係に悩む卒業生からの相談に応じた。
- ・他学部、他研究科も含め就職・勉学・人間関係に悩む在学生・在学院生・保護者等からの相談に頻繁に応じた。
- ・ストーカー的な行動を受けて悩む学生からの相談に応じた。
- ・ストーカー対策についての他学部教員からの相談に応じた。
- ・学生間のいじめの疑いについて他学部教員からの相談に応じた。
- ・職場委員会で活動している。